予算第一・予算第二特別委員会連合審査会（総合審査）における議事進行の内容について

大貫委員：議事進行。

藤崎委員長：何に対する議事進行でしょうか。

大貫委員：質問じゃありません、市長の答弁についてです。先ほどですね、岩崎議員が中学校給食は最重要だと考えていると、こう言う市長の答弁は変更しないのかと、本会議の議事録を確かめて、市長がそのように答えました。それに対して市長は、それは言っていないという内容の答弁でした。市長の答弁というのは、本会議の中での答弁というのは非常にね、これはまさに市長の言っていることが間違っていれば、前と今とが違ってたら、何を考えて我々は信用したらいいのかわからない。ですから、委員長におかれてはですね、先ほどの当該の本会議での議事録を調べて、で先ほどの市長の答弁と違ってるならば、それは市長がそれを正すから、それともどちらが正しいのか改めてきちんとすべき問題だと思います。これは理事会にかけてもいいですから、きちんとしてください。以上です。

藤崎委員長：ただいま、大貫委員の方からですね、答弁が異なっていたのではないかという御指摘がございましたが、補足して御答弁いただけることがございますでしょうか。

林市長：私は、中学校昼食と言った覚えなんですが。議事録にですよね、私は中学校昼食という気持ちで申し上げました。それが間違いであれば、またちょっと検討していただきます。ちょっと私も今判断がつかないので。私としては昼食というつもりでお話していたのですが。

藤崎委員長：ただいま、大貫委員より議事進行がございました。この取り扱いについて、協議いたしますので、正副委員長及び理事の方は委員長席前にお集まりください。

（協議）

藤崎委員長：ただいま、正副委員長及び理事の方にお集まりいただきまして協議いたしました結果、この件につきましては後ほど確認をさせていただきまして、運営理事において確認をさせていただくということで、御了承いただければと思います。ご異議ございませんでしょうか。それでは、質問を再開してまいります。

○２月21日　本会議録（第４号）（抜粋）

○古谷靖彦君　古谷靖彦です。日本共産党を代表して、先日の荒木団長の代表質問に引き続き質問します。

質問に入る前に、私たち日本共産党の予算の考え方について改めて述べておきます。市長は市民サービスを拡充することについてはお金がないと言いながら、その一方では、大型開発事業には財政をどんどんつぎ込んでいます。こんなやり方は市民理解が得られるはずがありません。（「そうだ」と呼ぶ者あり）私たちは、だからお金の使い方が間違っていると申し続けています。以下、お金の使い方を切りかえる必要がある切実な問題について質問してまいります。

初めに、中学校給食の実施について伺います。

市長は中学校給食を実施しない理由をお金がない、敷地がないと言いますが、一方では1000億円以上もかけて新市庁舎を進めておいて、お金がないというのは、横浜でも中学校給食を実施してほしいという多くの市民の皆さんの理解が得られるはずがありません。（「そのとおりだ」と呼ぶ者あり）

伺いますが、つまり市長は、中学校給食は本市事業の中でも優先順位が低いのだということなのでしょうか。まず伺います。

もしそうだとしたら、市長は完全に税金の使い方が間違っていると言わざるを得ません。

子供たちへのお金を出し惜しんだ結果、現場で何が起こってしまっているでしょうか。市長は現実を直視されていないのでしょうか。どんな家庭の環境の子供たちでも、少なくとも義務教育の現場では、格差と貧困が持ち込まれるべきではありません。（「そうだ」と呼ぶ者あり）しかし実際は、本市では中学校の子供たちの昼食時間には如実に格差と貧困が持ち込まれているのではないでしょうか。コンビニ弁当だったり、お弁当を持ってきたとしても十分な栄養が足りていないものもあります。果ては何も持ってこられない子供たちまでいる事態となっています。市長も御存じではないでしょうか。こんなことは小学校のような全員喫食な学校給食を実施していればあり得ない事態です。（「そうだ」と呼ぶ者あり）結局、横浜の子供たちへの中学校給食の実施を財政を主な理由で阻んできた結果、格差と貧困を学校現場の子供たちのところにまで広げてしまった責任を市長はどう感じられているのか、伺います。

また、ハマ弁事業も当初設定している喫食率を大幅に下回っています。価格を下げたり、メニューを刷新したり、おまけをつけたり、さまざまなてこ入れをされていますが、喫食率は低迷したままです。１月の最新の喫食率速報も前月を下回っています。ハマ弁の現状の生徒の喫食率についてどう評価されているのか、伺います。

また、ハマ弁の欠食率が低迷している最大の理由についてどう考えられているのか、伺います。

通常、市の施策や事業を継続したり拡大したりする場合には、それを行う根拠やデータを

示すことが必要です。このハマ弁事業に照らしてみれば、本事業を継続する、事業拡大しようとする客観的な根拠は何なのか、伺います。

今議会でも、民権フォーラムが、そして公明党が中学校給食の実施について要望しています。つまり、私どもも含めて自由民主党以外は議会の多数が中学校給食の実施について言及しているわけでありますから、ハマ弁が低迷している中、どういうやり方で横浜での中学校給食を実施するのがいいのか、検討する時期に入っているのではないでしょうか。市長の見解を伺います。（「一緒にするな」と呼ぶ者あり）（省略）

○議長（松本研君） 林市長。

〔市長　林文子君登壇〕

○市長（林文子君） 古谷議員の御質問にお答え申し上げます。

中学校給食について御質問をいただきました。

中学校給食の優先順位についてですが、最重要な課題と考えております。さまざまな意見がある中で、議論を重ねた結果として、給食実施は難しいと考え、ハマ弁を導入しています。選択制の中でハマ弁をより使いやすくすることで、中学校昼食を充実していきたいと考えています。（「そういうのを詭弁と言うのですよ」と呼ぶ者あり）

子供たちの格差と貧困についてですが、給食実施には施設整備費に多くの費用がかかるだけでなく、全校展開を考えると給食室のスペースがなく、できるところから給食を実施すると公平性に欠けるため、栄養バランスのとれたハマ弁を導入しています。（私語する者あり）また、昼食の用意が困難な生徒に対しハマ弁による支援を行っていますが、より多くの生徒に支援が行き届くように平成31年度より就学援助等対象者へ拡大いたします。

生徒の喫食率に対する評価についてですが、教職員を含めた全体の喫食率と比べると、生徒だけの喫食率はやや低くなっておりますが、昨年３月と比べると２倍に増加しています。学年が変わるごとに喫食率もふえており、一年生は3.0％となっていることから、新入生に向けてのＰＲを強化し、喫食率向上にしっかりと取り組んでいきます。

生徒の喫食率が低迷している最大の要因ですが、原則７日前に注文しなくてはならないことに加えまして、周りが食べていないので頼みにくいという声が多くあります。食べたくても利用しにくい雰囲気があると考えております。そのため、当日注文の全校展開、ハマ弁デーや新一年生へのＰＲなどを実施し、ハマ弁をより利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。

給食実施の検討時期に入っているとのことですが、ハマ弁は、本市と事業者とで平成28年度から５年間の協定を締結しており、平成32年度で終了します。平成33年度以降については、選択制のよさを生かしながら、さまざまな課題や意見等を踏まえ、より使いやすいハマ弁となるように検討を行ってまいります。（省略）